



AURORA NEWS

SUMMER
JULY 1, 2003

Japanese Language Scholarship Foundation Newsletter



Akiko Agishi

日本語奨学金基金(オーロラ基金) 創立5周年を迎えて

代表 阿岸 明子

5年前、当基金が設立された背景には、米国内における日本語教育の需要の高まりとそれに伴うアメリカ人の日本語教師の増加がありました。そこで、米国内で日本語教育に携わりながらも、日本で研修する機会が得られない先生方の向上を願い、非営利

団体「オーロラ基金」がスタートしました。

以前、歌手のさだまさしさんが、友人である私と故人となった夫、阿岸充穂を題材にした「極光(オーロラ)」を作詞・作曲され、日本で感動のステージをプレゼントしてくださったのですが、その経緯をご存じの理事の方の提案で呼称が「オーロラ基金」となりました。「オーロラ基金」は、今では南加コミュニティの皆様にも親しまれる存在になっています。まさしさんは当基金の主旨に賛同して、1999年の秋に初のオーロラベネフィットコンサートを発起人の1人としてスタートして下さいました。

更に日本語教育以外の分野で夢を追い求めているカリフォルニア在住者向けの「チャレンジ・グラント」を設け2002年までに合わせて11名の優秀な奨学生を送り出しました。

「オーロラ基金」はまだ小さな団体ですが、これからどんなビジョンで日米の言語教育及び文化活動に貢献していけるかが問われています。

21世紀に入り、ボーダーレスの新世界到来と沸き立ったのも束の間、同時多発テロ、アフガン、イラク戦争が勃発し、不穏な社会の動きに世界中が翻弄されています。こんな時だからこそ、日本語ばかりでなく多様な言語・伝統文化を大切にする精神生活が見直されるのではないのでしょうか。武器の代わりに話し合いで相手を理解し、世界の平和を勝ちとりたいと思います。

オーロラファンデーションでは一人でも多くの優れた奨学生をこれからも送り出し、「オーロラ基金」の賛同者の増加とあわせ、日米のコミュニケーションの輪がさらに広がっていくように、皆様と一緒にさらなる一歩を踏み出していきたいと願っています。これまでご支援頂いた沢山の寛大なスポンサーや賛同者、ボランティアの皆様にご心より感謝申し上げます。10周年を目指し、皆様からのご助言を真摯に受け止め、理事一同一丸となってプログラムの向上に努める所存です。これからも宜しくご指導御願い申し上げます。

初めてのイルカLA公演

「ロサンゼルス」の皆さん、イルカです。今回オーロラ・ファンデーションの主旨に賛同し、ロサンゼルスで初めてのコンサートを開くことになりました。今、本当にいろんな事があって、大変な世の中になっていますよね。だからこそ、みんなが集まってお互いに「人間ってとってもいいよね」と思えるような場が少しでも増えたらーそんな気持ちでコンサートをしたいと思っています。

ロサンゼルスは私にとって思い出深い街です。レコーディングのために3度も訪れ、その度にたくさんのお音を創りました。今回のコンサートでは、その音たちも久しぶりにお里帰りです。そんな懐かしい曲から最近思ってい

あの名曲「なごり雪」よ、ふたたび。



る事を歌にした新曲までを皆さんにお届けしたいですね。今回は家族全員でロサンゼルスに行こうと思っています。こんな家族大移動で旅するのも初めてのこんな事ですけどもそれだけ久しぶりに行くロサンゼルスとても楽しみにしています。」 - イルカ

コンサートの内容は今回のロサンゼルスだけのスペシャルです。イルカさんが紡ぐアコースティック・サウンドとやさしい言葉たち一心癒されるイルカ・ワールドをぜひお楽しみください!! 9月20日、日米劇場にて2時開演です。お友達を誘って、ぜひいらしてくださいね。

2003 Aurora Foundation/Club Activities

3月15日 お花見大会、LA東京会他と共催(オーロラクラブ)バルボアパーク雨天中止。阿岸宅で甘酒、手造り弁当を楽しむ。

5月22日 オーロラ・チャレンジ・グラント(加州在住米国人1名)及びオーロラ・スペシャル・チャレンジ・グラント(日本人1名)申込み締め切り

6月16日 チャレンジ・グラント受賞者選考委員会

6月20日 オーロラクラブ トーマス・エジソンコレクション見学会。(オーロラクラブ)ヘンリー幸田理事オフィスにて

6月29日 オーロラ基金創立5周年記念特別企画新藤兼人監督作品「午後の遺言状」LA上映会。日米劇場にて

6月29日 「オーロラニュース」第四号発行



雨の中のお花見

7月19日 Japanese American Community Dayに参加(オーロラクラブ)。ドジャース対カーディナルス戦観戦。ドジャースタジアムにて

9月19日 オーロラ基金創立5周年記念・アワード・ディナー&オークション開催。ホテルニューオータニにて

9月20日 オーロラ基金創立5周年記念「イルカオーロラベネフィットコンサート」日米劇場にて

11月21-23日 ACTFL(外国語教育全米会議/日本語教育部門)/NCJLT(全米日本語教師会)総会(フィラデルフィア市)国際交流基金ランチオン参加、奨学生2名が日本での研修体験発表予定。

12月5日 2003-4日本語奨学金申込み締め切り

12月14日 日本語クラブ会員との親睦をはかるオーロラ・クリスマス・パーティを開催予定。住山理事宅にて。

オーロラ基金5周年の歩み

「1998年」

11月 ACTFL (外国語教育全米会議) / NCJLT (全米日本語教師会) 総会 (シカゴ市) で、国際交流基金ランチオンでオーロラ基金設立を発表、奨学金プログラムを紹介。

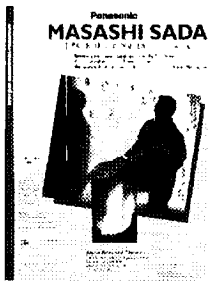
12月31日 日本語奨学金基金登録 (オーロラ基金) (非営利団体EIN: 31-163921)。

「1999年」

3月1日 第一回理事会、趣旨に賛同した12名の理事が参加して発足。

9月3日 第一回オーロラ基金アワード・ディナー&オークション開催。第一回目の奨学金受賞者を迎え祝った。ル・メリディアンホテルにて

9月4・5日 「さだまさしオーロラベネフィットコンサート」 日米劇場にて



11月 ACTFL/NCJLT総会 (ダラス市)、国際交流基金ランチオンに受賞者2名参加。受賞者2名参加し、日本での研修体験を発表。

「2000年」

6月 オーロラ基金の支援グループとして「オーロラクラブ」が発足。

7月~8月 奨学生2名が函館の(財)北海道国際交流センター(HIF)にて夏季研修に参加。

11月 ACTFL/NCJLT総会 (ボストン市)、国際交流基金ランチオンに参加、奨学生2名がHIFでの研修体験を発表。

#1 Joy R. Dickson -Year 2000

I am still teaching at the Thomas Edison Middle School in Brighton, Massachusetts. My program is finishing its fifth year. I was able to take students to Japan again in 2001. I have spoken at many teacher conferences and trainings since the scholarship. A curriculum unit that I wrote was published. It was not Japanese related. I was on the cover of the Winter 2003 Wellesley College Alumnae Magazine. The article was about my experience being a Japanese teacher. I was a mentor teacher to a graduate student wanting to be a Japanese language teacher last year and will probably do it again next year. This year, I also survived on the Japan Foundation's Grant Proposal Committee.

#2 Michael Van Krey -Year 2000

I just completed his sixth year of teaching Japanese at Evanston Township High School, Illinois. Since my first year, when I had two classes of Japanese, my program has expanded as there are currently eight sections (160 students) and a second Japanese teacher has joined my small "department." I am working a lot with technology and computer usage in the foreign language classroom and have recently had an article accepted by ASCD which will be published this summer. I was also a recipient of a fellowship to spend six weeks in Japan last summer (2002) to develop curricular units using video technology. I also completed his secondary certification and a Masters in Teaching degree last spring and is currently serving on a committee through the Illinois Board of Education to add Japanese certification to the state's roster of certifiable areas.

Comment from Michael: I hope it is obvious through my work in Japanese teaching that your scholarship has tremendously aided my craft. I am eternally grateful to you and hope you are able to continue this wonderful opportunity for many years to come.

12月2日 第二回オーロラ基金アワード・ランチオン&オークション開催。ジャズシンガーの上村孝子さんボランティア出演。レドンドビーチ、ポートフィノホテル&ヨットクラブにて



第二回オーロラ基金アワード・ランチオン奨学金受賞者及びオーロラ理事出席者

「2001年」

1月20日 「深作欣二監督を囲み映画を語る会」をアメリカン・シネマテックとジャズパ共催。ハリウッド・エジプシャン・シアターにて

3月3日 「ひな祭り」をCENTER FOR HEALTHY AGINGと共催して日本の文化を交歓。(茜染め、創作人形、日本舞踊、茶道、琴演奏、雑壇、生け花等。)ル・メリディアンホテルにて

4月7日 「南こうせつコンサート」協賛

8月1日 「オーロラニュース」第一号発刊。

9月7日 第三回オーロラ基金アワード・ディナー&オークション開催
ホテルニューオータニにて

9月8・9日 「森山良子オーロラベネフィットコンサート」 日米劇場にて

11月17・18日 ACTFL/NCJLT総会 (ワシントンDC)、国際交流基金ランチオンに参加、オーロラ奨学生が日本での研修体験を発表。



#3 Tracy Pollard -Year 2001

M.A. Japanese language and Pedagogy and Teacher Certification program at University of Colorado at Boulder.

#4 James Buoye -Year 2001

I studied at the Japan Foundation's Japanese Language Institute in Urawa during the summer of 2001. The following year I participated in a Summer Institute for the integration of technology into the teaching of Japanese sponsored by the Alliance of Associations of Teachers of Japanese. Currently, I am serving as supervisor of world languages for the Northern Valley Regional High School district, Dumont, New Jersey. The district encompasses two separate regional high schools with a combined enrollment of 2,200 students.

12月15日 オーロラ・クリスマスパーティー、ゲストスピーカー、マツト・マー氏 (オーロラ・チャレンジングラント 受賞者) 阿岸理事長宅にて

オーロラ・コーラス サプライズパーティー、指導者、門間克雅氏招待。サン・アントニオ・ワイナリーにて

#5 Matt Marr - Year 2001

I have completed my course work and field exams for the Ph.D. in sociology at UCLA. I have recently passed my oral defense of my dissertation proposal entitled, "Transitioning Out of Homelessness in Two Global Cities: Los Angeles and Tokyo." I will be beginning my participant observation and interview research among 15 persons attempting to escape homelessness in Los Angeles in July 2003, and leaving to replicate this research in Tokyo in March 2004. The preliminary research I conducted in Tokyo with the support of the Aurora Challenge Grant was fundamental to setting up my dissertation research project.

「2002年」

3月10日 「お花見と日本庭園（水芳園）見学」をLA東京会と共催。
（オーロラクラブ）

4月1日 「オーロラニュース」第二号発刊

5月17日 ハサディナ・ショーケース・デザイン・オブ・ハウスの豪邸見
学。（オーロラクラブ）

6月25日 「松井稔監督を囲み語る会」をライトハウス、ジャスバ、アメ
リカン・シネマテックと共催。Cafe des Artistesにて。その後、「日本鬼
子」上映会。ハリウッドエジプシャンシアターにて

7月5日 オーロラ基金奨学金受賞発表。

7月31日 オーロラ・チャレンジ・グラント受賞発表。

9月5日 第四回オーロラ基金アワード・ディナー&オークション開催。
ニューオータニホテルにて

9月6日 「加山雄三オーロラベネフィットコン
サート」ラミラダシアターにて

11月22・23日 ACTFL/NCJLT総会
（ソルト・レイク市）、奨学生2名が日本での研修
体験を発表。



#6 Bonnie Wolfgang -Year 2002

I am still teaching Japanese at Penn High School in Minshawaka, Indiana, and of course the students enjoyed my stories about my summer experience as an Aurora scholarship recipient at the Japan Foundation's Japanese Language Institute in Urawa, Japan. Currently, I am teaching English conversation to a small group of Japanese businessmen who are on a special program at Notre Dame University, and I find myself using some of the conversation topics that our instructors at Urawa used. Who would have thought?!!!

#7 Jennifer Pedersen - Year 2002

Japanese language instructor in the Omaha Public Schools, elementary school level
in Omaha, Nebraska.

2003 奨学金受賞者紹介

By Hiroshi Sumiyama
1st V. P. Aurora Foundation

JLSF オーロラチャレンジグラントは日本に関わるユニークなテーマあるいは夢を持つカリフォルニア在住のアメリカ市民に、その夢を実現するために贈られる。さらに今年は創設5周年を記念してスペシャル・チャレンジグラントとしてアメリカに来て自分の夢を実現したいと思っている日本人にも贈られることになった。



Nicola Gilbert

チャレンジグラントは日本料理研究家のニコラ・ギルバートさん（ロサンゼルス生まれ、ベニス市在住）が選ばれた。ニコラ・ギルバートさんは高校、大学時代パートタイムで働いた日本食レストラン、寿司バーで日本食に興味を持ち、その後JETプログラムで日本に行った折り寿司について学び、さらにロサンゼルスすし・アカデミーに学んだ。そして寿司をアメリカ人の家庭でも作れるようにしたいと考え「すしガール」というケータリングサービスを始めた。さらにアメリカ人向けの寿司の作り方の本を執筆するため日本を訪問したいと考えている。ニコラ・ギルバートさんの努力で寿司という日本の代表的な食文化がアメリカの家庭に広まることは素晴らしいことである。



Michiyo Okayasu

のみならず私たち日本人にとっても興味深いものである。

一方、スペシャル・チャレンジグラントはドライフラワー・アーティストの岡安美智代さん（東京生まれ、さいたま市在住）が選ばれた。岡安美智代さんはドライフラワーを素材として日本の伝統的な華道の精神や風水学を取り入れた新しい「和風・風水花」を創出した。この「和風・風水花」をアメリカの人たちに紹介することによりその中に含まれる日本文化、日本の心を伝えたいと願っている。ドライフラワーというカリフォルニア的な素材と日本の華道を融合させた新しい芸術はアメリカの人たち

のみならず私たち日本人にとっても興味深いものである。



ジョージ荒谷氏
George Aratani

プロフィール

1917年アメリカ合衆国カリフォルニア州サウスパーク生まれ。スタンフォード大学、慶応義塾大学中退。父親の死後家業を引き継ぐが、太平洋戦争中に強制収容所に入れられ、その間に事業を乗っ取られてしまう。44年に井上サカエと結婚。戦後、ミカサ、アムコ、ケンウッドと3つの会社を設立。88年に叙勲を受ける。94年にアラタニファウンデーションを設立。現在はセミリタイア中だが、引き続き日系人コミュニティなどに寛大な寄付などをして慈善活動で貢献している。

ジョージ・荒谷さんに聞く

この度オーロラ・ファウンデーションの Board of Governors になっていただいたジョージ荒谷さんは、アメリカ生まれの日系二世ですが、とてもきれいな日本語をお使いになります。そこでどのようにして日本語をマスターされたのかをうかがいました。

インタビュアー；阿岸 明子

ウィークデーは日本語学校

阿岸：ジョージさんはアメリカでご活躍なさっていて、私たちのロールモデルですが、まずどうやってそんなに日本語が上手になられたのかを教えてください。

荒谷：私はアメリカで生まれましてね。小学校時代、学校が終わった後に、日系人のための日本語学校があって、ウィークデーは毎日そこに通っていたんですよ。

阿岸：ウィークエンドじゃなくて月曜日から金曜日まで？

荒谷：月曜から金曜まで毎日2時間。我々は両親が日本生まれでしょ。だから家庭では日本語で話してくれるわけです。ところが一世の親たちはアメリカに住んでいると、一世同士の普通の会話でも、英語の単語が大分入ってくるんですよ。いわゆる純粋の日本語ではなくて、英語と日本語がミックスしたような日本語なんです。あと、英語はアルファベットだけ覚えればいいでしょ。ところが日本語学校に行くと、「家」やら「天気」やらいろいろな漢字が出てきて、非常に憶えにくいんですよ。我々にとって一番難しかったのは、例えば「道（みち）」っていう漢字を覚えるでしょ。次に「道路」というのが出てきて、「みち……」って読むと「ノー、ノー。こういう場合には“みち”じゃないんだよ」と。「だって“みち”と覚えてますよ」って言うと、「いや、覚えていてもこういうふうにコンビネーションになると音読みになるんだ」って。それでますます混乱してね。だから、我々の小学校時代は、親たちには失礼かもしれないが、あんまり熱心じゃなかったよ、みんな（笑）。

阿岸：先生は日本から来ている方でしたか？

荒谷：先生はみんな一世の人でしたね。そういうことで、このままでは日本語はダメだって親たちが自覚してましたよ。だから、どうしても日本へ行かなくちゃいかんと思ったんでしょうね。私はハイスクールの4年生の時に、スタンフォード大学へ行こうと思って手続きをしてね、入れるようになってたの。それが急に両親から「1年でもいいから日本に行ってくれ」っ

て言われてね。また日本に行って苦勞するのは嫌だって言ったんだけど、私の場合は兄弟がなくて、両親から非常によくしてもらってたからね。それで、1年でもいいから我慢して行ってみようと思って行くことにしたの。それで行ってみたら、荒谷のおばあさんが親父に言われて、都心はよくないからって郊外に新しく家を建ててたの。

阿岸：うわー、すごい！（笑）

荒谷：行ってみたら高円寺ってところだね、家の近所には畑もあったんですよ（笑）。その家も和洋折衷タイプだね。ところがそれよりびっくりしたのは、他人がいたんですよ、男の人が。親戚の人かと思ってたけど、後で紹介してもらったら、中村先生っていう住み込みの家庭教師だったの。二階の部屋でふすま一枚向こうが中村先生でね。夜になって「先生、あの一、今日のあれ、何だったっけ」って（笑）。そういうように勉強ですよ、土、日、祭日なしで。話し方、会話、書き方、読み方、それから作文。10ヶ月そういうのが続きましてね。それでおばあさんも「ジョージも会話が前よりも大分上達したね」って褒めてくれたんですよ。ただ、字引ばかり見てるでしょ。それで普通の会話に使わないような言葉を会話で使うとね、「そういう言葉は普通会話に使っちゃだめですよ」って注意されたりね（笑）。それで10ヶ月たったところで中村先生がアメリカの親父に「ジョージさんに試験を受けてもらう」って言ってね。その試験は非常に難しい試験で、その試験に合格すれば日本の大学の入学試験を受けることができるんだけど、それぐらいの日本語力がついたらろうっていうことでね。

阿岸：頭もすごく良かったんですね。

ミネソタの日本語学校の先生に

荒谷：それで親父が東京の友だちにね、「息子が東京で勉強してるんだが、大学の入学試験を受けるならどこがいいのか」って聞いたら、みんな慶応に入れて言うわけ。それで慶応の入学試験を受けることになった。第一志望の経済は

受からなくて、第二志望の法科で慶応に入ったの。それで慶応で3年間学生してた。学生時代に大分会話が上達しましたよ。家で勉強している時は、会話そのものはあんまり上達しなかったね。どうして慶応を3年でやめたかという、親父が病気だったんですよ。あの当時は飛行機もないし、船で2週間かかったけど、一度日本からアメリカに帰って、4年ぶりに親父と会った。親父は退院してマロンビアってところのサナトリウムにいたので、そこを訪問してね。「パパ、帰ってきましたよ」って日本語で言ったら、「ジョージは日本語が上手くなったねー」って言ってね。

阿岸：喜んでくれたんですね。

荒谷：そうそう。「だってパパ、僕は慶応の3年生ですよ」って言ったら、「ああそうか」って(笑)。その時に親父が「そのくらいの語学力があるなら、どうせアメリカに住むんだから、もう慶応は行かなくていいよ」と。それで成績表をスタンフォード大学に送ってもらってね、スタンフォード大学の3年生に入ってあと2年間やろうと思ってた。でも入った途端に親父がまた急に悪くなった。それですぐロサンゼルスに帰ってきて、それから10日目に亡くなったの。親父は農場などいろんな商売をした。親父が雇った一世のシニア・エグゼクティブが3人いたんですよ。ところがその3人がもめちゃってね。それで僕もスタンフォード大学をやめて帰ってきて、全然経験のない仕事を覚え始めたの。それが1940年の終わり頃。農場は5000エーカーやってた。まず、畑のことを勉強した方がいいだろうって、朝5時に起きて農場を回りますよ。そのうちにね、1941年の12月に真珠湾攻撃で戦争が始まって、それで、トップのマネージャー3人がどっかへ連れて行かれちゃった。

阿岸：大変でしたね。

荒谷：その後戦争中にキャンプへ行ってる間に、親父の農場の商売がごまかされてダメになっちゃった。陸軍省の情報学校からアメリカの兵隊に日本語を教えるので先生になるように電報が1週間に1回は来てて、はじめは会社の問題があったから行けなかったけど、すぐ会社がダメになったので、結局ミネソタの日本語学校の先生になった(笑)。その間にサカエと結婚したの。

阿岸：行って良かったですね(笑)。

10年間に3つの会社を始めた

荒谷：終戦になって元の商売がなくなったでしょ。それで、貿易会社を作って、日本の物をアメリカへ輸入する計画をしたんですよ。それがミカサ。名古屋の陶器ね。ところがそのメーカーの人がね、「こんな山の中にいて、アメリカの主婦がどういふ食器を買ってどう使っているのかを見たこともないまま作ってるのは良くない」って、社長や副社長、営業部長、デザイナーのような人がどんどんアメリカまでやってくるようになって。ミカサの仕事を始めて3年後には、アメリカの医療器具を日本の病院に納める仕事も始めたの。そしたら今度は日本のドクター連中で、特に奥さんがアメリカを見たいっていうわけ(笑)。それでサカエが日本のお客さんのお世話係。そういうことで、ますます日本語を使い出す。日本に滞在する期間が長くなって、日本の事情も分かって、だんだん英語よりも日本語を使う方が多くなっちゃって(笑)。それで1960年にはケンウッドも始めたの。10年間に3つの会社を始めた。だからもう日本語と英語が半分半分だ(笑)。

阿岸：でも、キャンプから戻ってきて、前の農場とかみんなだめになって、それでもお金をたくさん持っていたのですか？

荒谷：いや、無いの。ただね、サンタマリアって所に農場があった。そこからちょっと離れた所にランボックっていう所があるんですよ。そこに第二工場があったんです。そのランボックに、親父が僕の名義で50エーカーの土地をもっていたの。それだけです、残ったのは、ロサンゼルスバンク・オブ・アメリカで、その土地を担保にしてお金を借りたんです。日本の銀行は誰もいないの、あの当時は、住友はいない、東銀もない。それで世界で一番大きいバンク・オブ・アメリカとやっていたの。

阿岸：小さくても土地があつて良かったですね(笑)。その後はジョージさんの頭と努力で成功したんですね。でも一つ残念だったのはスタンフォードを途中でやめたことですね。その後は行こうと思いませんでしたか？

荒谷：大学はやっぱり勉強しなくちゃいかなきゃ(笑)。

荒谷奥様：かわいい孫が行ってくれました。

阿岸：(笑) おじいちゃんの代わりに。

荒谷：孫がもう卒業しましたよ。

阿岸：それとオーロラ・ファウンデーションは、アメリカの先生を日本に送るんですが、やはり日本語という言葉の大事にしていくには、リーダーになってもらう良い先生がいないとちゃんと伝わっていかないんです。アメリカ人でありながらジョージさんほど上手くない人でも、日本に行けば少しは上手くなって帰ってきて、さらに若い人を育ててくれています。オーロラ・ファウンデーションが今後どういふふうにするのがいいのか、アドバイスはありますか？

荒谷：私もね、オーロラでやっておられることは非常に良いことだと思うんですよ。というのはね、私も同じアイデアがありましてね、UCLAの中に、ジャパン・スタディーズっていう大学院があるんですが、そこを通じていろんな学生を養成して、日米の友好関係を奨励したいという考えがあるんです。それで数年前にジャパン・スタディーズ担当のディレクターに会ったんですよ。その時にプロジェクトの話があつてね。日本人と同等の日本語力があつて、しかもまだ日本のことを研究したい大学院生に、1年または2年のスカラシップをあげるプロジェクト。それを聞いた時に、それはいいって賛成したの。やっぱり、アメリカでいくら日本語が上手になっても、日本のことを研究するのは日本でやった方がいいと。

阿岸：それではジョージ荒谷のスカラシップというものがUCLAにあるんですね。始めてから何年になるんですか？

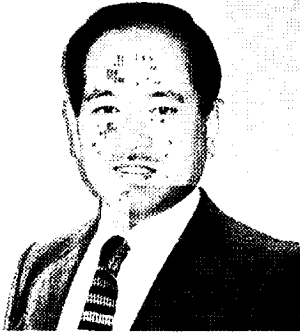
荒谷：そのサポートをやって2年ちょっとになりますね。

阿岸：UCLAのジャパン・スタディーズを応援されているのは素晴らしいことですね。ライシャワーご夫妻やフルブライト上議ご夫妻も同じように日米の将来の発展のために貢献なさいましたね。今日は良いお話をうかがいました。これからも健康でいらしてくださいね。ありがとうございました。



Sakaye & George

新理事紹介



米国弁護士 ヘンリー幸田
(H. Henry Koda)

コーダ・アンドローラ法律事務所 所長
学学院大学院理学部化学科、明治大学
法学部卒業
ヘッパードイン大学ロー・スクール
特別課程修了
1972年より、スペンスリー法律
事務所勤務
1977年コーダ・アンドローラ法
律事務所設立、現在にいたる

著作
ビジネス・モデル特許(日刊工業)
戦慄の patents・マフィア(DHC
出版)
知的所有権で日本が勝つ日(徳間書
店)
米国特許法逐条解説、日米特許紛争
スーパーマニュアル、米国特許事件
ファイル(発明協会)その他多数

「オーロラ基金の皆様、お元気ですか。新たに参加させていただくことになりましたヘンリー幸田です。よろしくお願ひいたします。

イラクや北朝鮮等、殺伐としたニュースが続く世界の中で、地味ながらコツコツと人の輪を広げてゆくオーロラの活動には以前から共鳴するものを感じておりました。メンバーの一人として活動するチャンスをいただいたことを誇りに思ってお手伝ひさせていただきますつもりであります。

本職は弁護士、サイドビジネスは著作、趣味はトーマス・エジソン発明品のコレクションですが、私が今もっとも興味を感じ

ているのは、「ヘレニズム」です。2500年以上も前に民主主義の理念を生み出した古代の知性には、限りない魅力が秘められております。

激しく傷つけあう民族間の争いに終わりを告げ、愛と平和に溢れた国際社会を築く上で、ヘレニズムにおける協調の精神は、今世界が必要とする求心力となるものと思われまふ。オーロラ基金の精神と見事に一致するようすです。

皆様とヘレニズム、そして愛と平和について語り合うのを楽しみにしております」

H. Henry Koda

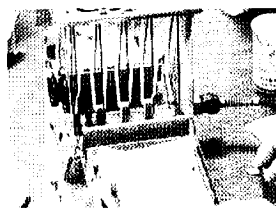


幸田さんのオフィス：THOMAS EDISONのCOLLECTION展示ルームにて(オーロラクラブ)

幸田さんのエジソンコレクションを訪ねて

電気を発明したエジソン、それしか知らなかった私にエジソン精神を教えてくださいましたのは幸田さんです。オーロラの理事である若尾さんのセミナーで、初めて幸田さんの講演を聞いた時の興奮は今も忘れません。エジソンは子供のころから、たいへん好奇心が強い子供だったそうです。鶏が卵をかえすの見て、自分でもできるのではと卵を暖めたそうです。彼の母親ナンシーもそんなエジソンを応援しました。そんなエジソンは電球を発明する時に10000回以上も失敗をくり返したそうです。しかし、10000回失敗したことを、それがダメだということを発見したんだと友人に言ったのです。決して負け惜しみではなく純粋にそう思っていたんだと思います。彼の好奇心は、科学の分野だけでなく、音楽や文学等幅広くあったそうです。しかし、生まれつき悪かった聴覚はほとんど音をきけない状態で、それでもクラシック音楽を何とか聞こうとピアノにかじりついて聞いたとのこと。そのことから、音の振動を発見し、蓄音機の発明に繋がったそうです。また日本の「武上道」という本から、日本の弓矢が強いことが分かり弟子を日本へ派遣して、京都の竹を使用して、はじめて、電球発明を成し遂げたのです。

私が、本当に感動したのはここからです。当時ガス灯が主流であったニューヨークの街に電球をつけたのはあまりにも有名な話だそうです。しかし、電球があっても電気がない時代です。どてかい発電機を作ってオープニングは飾ったものの、高価な電気ゆえ誰も電球を使用



エジソンが発明したトースター

する人はいなかったのです。そこで、安価な電気を開発するために、ダム作りを始めます。エジソンの不屈の精神の前には障害はなかった様にさえ思えてならないのです。今でさえダムの上に立つと私は下を見る恐ろしさに、こんなもの誰が創ったのかとついこの前まで思っていました。まさにプロジェクトXXXです。誰も創ったことのないダムです。ダム造りに働く人たちが生活するための家が必要で、安価でしかも強いベニアのプレハブさえも造ってしまったのです。さらに、驚いたことに、水圧に耐えられる硬度なセメントをも開発します。当時のフーバー大統領に働きかけ、国の政策として、ダム造り、いや電気造りをさせてしまったのです。強い念岩も通す。この後がもっと凄いです。そのあまったセメントで何を作ったかという、なんとフリーウエーを作ってしまったのです。その話を聞いた時思わず、え!と言ってしまいました。

人間の好奇心とはなんて凄いのか、人間でこんなことまでできるのかと改めて教えて頂きました。知識を知

恵に換え利用するエジソンの精神に感動しました。近い将来日本に幸田さんのエジソンコレクションを集めたエジソン博物館ができるそうでたいへん楽しみです。展示物だけでなく、幸田さんがエジソンを熱く語られるビデオのようなものも見れたら、訪れた方々もさらなる感動を持てるような気がしてなりません。最後にエジソンのトースターでご馳走していただいたパンは最高に美味しかったです。ありがとうございました。
Jeff Yamazaki

Aurora Foundation Board of Directors:

- Founder and President: Akiko Agishi
 1st Vice President: Hiroshi Sumiyama
 2nd Vice President: Hayahiko Takase
 Secretary & Treasurer: Tatsuhiko Wakao
 Toshio Handa
 Hiroko C. Kataoka
 E. Barry Keehn
 Henry Koda
 Laurel Rasplica Rodd
 Tetsuo Saito (JAPAN)
 Yoshiaki Saito (JAPAN)
 Akiko Sakka
 Isao Tsujimoto (JAPAN)
- Honorary Chairman: Masaharu Kohno
 Consul-General of Japan, Los Angeles
- Honorary Co-Chairman: Masashi Sada (JAPAN)
- Board of Governors: George & Sakaye Aratani
- Board of Trustees: Andy Takani, Yuichi Iwaki
- Advisory Board: Noriaki Ito,
 Akira Moromi (JAPAN), Yoko Sugi

平和は、作りだすもの。 その道具は、歌と踊り

今回のイラク戦争を見ていると、戦争というもの、長い時間をかけて、周到に準備されて、始まるイベントであることが分かります。



Shigeharu Higashi

そして、平和という現象にも、同じことが言えて、たれかが、率先して初めて実現できるイベントなのでは、ないでしょうか。

戦争をするためには、戦車やミサイルのような、戦争のための道具が必要です。ところで、平和を実現するために必要な道具は、なんでしょう。わたしは、歌と踊りであると、確信しています。

すっかり“鎖国”モードに入っている日本からやってくるイルカさんは、まさに歌を運ぶ平和の使者なのです。

イルカさんを迎えるにあたって、わたしからの提案があります。チケットを2枚買って、1枚は、これまで、日本の音楽を聞いたことのないお友達にあげてください。そうすると、会場の半分は、自動的にアメリカ人になります。これこそ、平和戦略だと思いませんか。

オーロラ・クラブ会長
 東 繁春 (ひがし・しげはる)
 (英字新聞カルチュラル・ニュース発行人)



オーロラ理事、竹ヶ原 (スタッフ)



加山さんとオーロラボランティア (バックステージにて)

オーロラ・クラブメンバーシップ (年間費) 申し込み書

- 個人会員 (学生・シニア 36ドル) 60ドル
- 家族会員 120ドル
- コントリビューター 300ドル
- 永久個人会員 1000ドル
- コーポレート・パトロン 1200ドル+ (以上)
- コーポレート・ベネファクター 3600ドル+ (以上)
- オーロラ・サークル 6000ドル+ (以上)

会費の税金免除に関しましては各位の税務担当にご相談下さい。

オーロラ基金ID# : 31 1639219

氏名: _____

住所: _____

電話番号: _____

Eメール: _____

企業名: _____

応募理由:

日付:

チェックのあて先は、"JLSF/Aurora Club" まで

金額\$ _____ 同封

VISA 又は MasterCard

カード#: _____ 期限 _____

*セキュリティコード#: _____

(※カードの裏にある番号の最後の数字3桁をご記入下さい。)

署名: _____ 金額: _____

The Japanese Language Scholarship "AURORA" Foundation would like to express our gratitude to our sponsors and supporters.

Platinum Aurora Patron: Panasonic

Gold Aurora Patron: Japan Airlines • Toyota Motor Sales, USA, Inc. • Aratani Foundation • Crystal Cruises / Shogun Cruises & Tours • Nobu Matsuhisa • All Nippon Airways Co., LTD.

"A Last Note" Special screening sponsors & supporters:

Gold Sponsors: All Nippon Airways Co. Ltd. • Aratani Foundation • The Japan Foundation Los Angeles Office • Panasonic Company West • Toyota Motor Sales USA Inc. • Union Bank of California

Contributing Sponsors & Advertisers: Asahi Ryokuken • Hisamitsu America Inc. • Kajima International Inc. • Japanese Executive Women's League • Genmai Koso • At House Inc. • House Foods America Corporation • Ito Farms • Los Angeles Dodgers • MLT Trade International Inc. • Keiro Senior HealthCare • MAEDA-En USA • Mishima Foods USA Inc. • Mutual Trading Co. Inc. • Pasadena Seminar Kai • Sapporo U.S.A. Inc.

Media Sponsors: Lighthouse, Rafu Shimpō, United Television Broadcasting

Supported by: Consulate General of Japan, Los Angeles • Japan America Society • Japan Business Association • Japanese Chamber of Commerce of S.C. • JETRO Los Angeles • LA TOKYO-KAI • Nanka Hiroshima Kenjin-kai

Ticket offices: Aratani/Japan America Theatre Box Office • Kinokuniya Bookstore: Little Tokyo, Costa Mesa Store • Nijiya Market: Torrance, Rolling Hills, Sawtelle, Puente Hills, San Diego • Sawtelle Books & Music • Sanuki no Sato • Genmai Koso • Kaede Shobo • Book Value • Yama Seafood

Volunteers: Paula Alwyn • Hisako Handa • Mie Hayashi • Mitsuji Higashimoto • Hiroshi Ishimura • Teruko Kanase • Leslie Kearney • Koji Kojima • Misako Manaka • Keiko Murai • Kazuhiko Ono • Yuji Sato • Masayo Sodeyama • Yoko Suenaga • Makoto Takahashi • Akiko Yasuike

Design and Printing: Jeff Yamazaki • Naomi Adachi, Parachute America

Committee Members of "A Last Note" Screening: Hayahiko Takase (Chair) • Akiko Agishi (Vice-chair) • Toshio Handa • Shigeharu Higashi • Akiko Sakka • Jeff Yamazaki • Hideki Takegahara (JLSF office)

Collaborators: Kindai Eiga Kyokai • Restaurant Hironoya • Kaneto Shindo • Junichi Suzuki

Distributed by: Toho Co. Ltd.

Presented by: Aurora Foundation
The Japanese American Cultural & Community Center

ボランティアをしませんか！！

編集後記

オーロラ基金創設5周年、この活動に賛同する若い人たちも加わり編集会議も盛り上がっている。オーロラニュースがさらに多くの人達にこの活動を伝え10周年に向けてますます発展していくことを願ってやまない。(すみやま)

四国で高校生だった○十年前、高価なステレオが買えずにカタログを眺めて我慢。中でもKENWOODは醸し出すセンスが群を抜き、嗚呼コイツを買えたなら…、といつも溜息。荒谷さんの記事に触れ、懐かしくなりました。(村)

本基金創立5周年の企画に邦画をロスで上映。今までは、日本から映画監督をお呼びして開く会はありませんでしたが、これからもっと邦画がビックスクリーンの劇場で観る機会がロスで増えればと願っています。(Hideki)

阿岸さんのペースにのせられて、いつの間にか編集部員になってました。今回はたいしてお役に立てませんでした、少しでも紙面が読みやすくなったと感じていただけたら幸いです。(高橋)

受賞者の方々の勉学意欲には頭が下がります。短期間でこんなに日本語が上手になるのかと感心しました。また、日本の文化を愛している姿に感動しました。アメリカに住む私も英語を勉強しアメリカ文化を愛せるよう頑張らなくては。(山崎/オーロラニュース編集長)



オーロラ編集委員

Are you interested in volunteering? Please call Hideki at 323.466.1237 or e-mail at AuroraFoundation@usa.net
Aurora Foundation General Information, Aurora Club Membership forms, and Scholarship application forms can be found on our website: www.jlsf-aurora.org



JLSF/Aurora Club
6630 Sunset Boulevard, Hollywood, CA 90028
Tel:(323)466-1237 • Fax:(323)464-8048
E-mail:aurorafoundation@usa.net
Web:www.jlsf-aurora.org

Place
Stamp
Here